

## Ⅱ 重点項目

### 1 豊かな人間性の育成

グローバル化や情報化の進展により社会が急速に変化する中、子どもたちが自立した人間として他者と共によりよく生きていくためには、学校教育全体を通じた道徳教育の充実を図るとともに、家庭や地域と連携を図りながら、協働して支え合おうとする心や、望ましい集団活動を通してよりよい人間関係を築く力を育成したり、自らの生き方を考え、地域や社会とのつながりを実感できるキャリア教育を推進したりすることが重要です。

また、生涯にわたって読書に親しみ、豊かな人生を送ることができるよう、感性を磨き、創造する力を培う読書活動の充実を図ることが大切です。

1-1 道徳教育の充実      1-2 人間関係を築く力の育成  
1-3 郷土に根ざしたキャリア教育の充実      1-4 読書活動の充実

#### 1-1 道徳教育の充実

変化が激しく価値観が多様化する社会においては、人と人との関わりを通して、相手を思いやる心や、互いに協力し支え合う心、自らを律する心など、人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性をはぐくむことが大切です。そのためには、全教育活動を通じた道徳教育の推進を図るとともに、学校、家庭、地域が相互に連携しながら、計画的、継続的に指導することが重要です。

また、道徳教育の要として、自己を見つめ、人としてのよりよい生き方やあり方について深く考え、思いを語り合う道徳科の学習の充実を図ることが大切です。

##### ■全教育活動を通じて行う

- 子どもの実態や地域の願いを踏まえ、育てたい子ども像や身に付けさせたい力を明確にして、指導内容の重点化を図る。
- 道徳教育推進教師を中心に、全教職員がそれぞれの立場から、自校の道徳教育の目標の実現に向けて、連携・協働する指導体制を整える。
- 道徳教育の目標や各教科等における道徳教育に関連する事項、家庭や地域との連携などを示した全体計画を作成し、自校の道徳教育の方向性を全教職員で共有する。
- 各教科等における道徳教育の指導内容および時期等を示した全体計画の別業を活用し、各教科等の学習内容や体験活動との一層の関連を図り、道徳的価値を意識した指導を行う。

##### ■家庭や地域と連携する

- 自校の取組について理解を得るために、学校報や学年通信、ホームページ等を通して、子どもの成長の様子や道徳教育に関する積極的な情報発信を行う。
- 道徳科の授業を公開したり、PTAの学級懇談において、子どもに身に付けさせたい力などについての意見交換を行ったりするなどして、子どもの道徳性をはぐくむことの重要性について共通理解を図る。
- 地域での体験活動や行事への参加、地域人材の活用など、子どもの道徳性をはぐくむための地域と連携した取組のあり方について、学校運営協議会等で協議する。

## ■要としての道徳科の充実を図る

各教科等の学習や体験活動と関連付け、子どもの道徳性をはぐくむために、道徳教育の要としての道徳科の役割について全ての教師が共通理解し、全校体制で道徳科の授業改善に取り組むことが大切です。

### 道徳教育推進教師を中心とした校内体制づくり

- 全教職員で身に付けさせたい道徳性や重点内容項目について、共通理解を図る。
- 教材研究や授業の相互参観、情報共有など、学年や全校がチームとなって授業づくりに関わる。

### 道徳的諸価値についての理解をもとに、考えを深める指導の充実

- 子どもに考えさせたいことや話し合わせたいことを明確にする。
- ねらいに迫る指導過程や指導方法を工夫する。
- 教師と子どもが共に考え、語り合い、多様な考えにふれる場を設定する。
- よりよい生き方についての思いや願いを持つことができるよう、道徳的価値を自分自身との関わりの中で考える機会を大切にする。

(→P50 道徳科参照)

#### <指導の工夫・改善のための取組例>

◇子どもの思いや考えを引き出すための工夫

- ・動作化、役割演技の活用
- ・個で考える時間の確保
- ・話し合いの視点の明確化
- ・子どもの思考の流れに沿った板書

など

◇人前で話すことが苦手な子どもの思いや考えを生かすための工夫

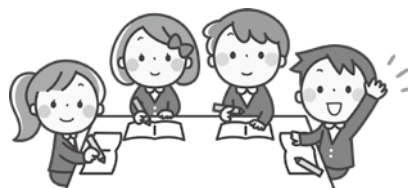
- ・ワークシート、ノートの活用
- ・教具の活用（ネームカード、心情グラフ、心情メーター、表情カード等）
- ・ICTの活用（タブレット端末に入力された内容を把握・整理し、全体で共有する）

など

◇道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めるための工夫

- ・画像や映像、グラフ等の提示
- ・発問の精選
- ・これまでの体験を想起させる場の設定
- ・振り返りの視点の提示

など



### 子どものよさや成長を認め、励ます評価

- 授業中の表情や発言、記述など、次の視点をもとに子どもの姿を見取り、評価する。
  - ・他者の考えにふれ、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
  - ・道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

### 今後の指導に生かすための道徳教育全体の見直し

- 目指す子ども像や重点内容項目に照らし、子どもの変容等について話し合い、全体計画や別業の見直しを行う。
- ねらいに即した指導の手立てを工夫したり、子どもの思いや考えを生かした学習活動を展開するための視点から授業を振り返り、指導の工夫・改善を図る。

## 1-2 人間関係を築く力の育成

望ましい人間関係を築くことができる力を育成するためには、自分や他者を理解し、自分も他者も大切にすることを心がけ、互いの心が通い合う集団づくりに努めることが大切です。

また、集団の一員としての責任を持ち、主体的に行動できるよう、規範意識を涵養することが重要です。

### ■自分や他者を理解し、自分も他者も大切にすることを心がける

- 道徳科や特別活動等において、自分の思いや考えを表現し、互いに認め合う場面を設定するなど、相互の理解を深める活動を取り入れる。
- 朝や帰りの会でのスピーチや感想発表において、よさを賞賛したり、活躍を各種たよりや教室掲示等で紹介したりすることを通して、子どもの自己有用感を醸成する。
- 誰もが自信を持って自分の考えを話すことができるよう、友達の話最後まで聞いた上で発言するなど、一人ひとりの意見を大切にすることを育てる。
- 意見交流や学校生活の諸課題について話し合う活動を通して、様々な意見にふれることで、考えを広げたり、折り合いを付け、調整したりする力を育てる。

### ■互いの心が通い合う集団づくりに努める

- 教師が子どもとのふれあいの中で、一人ひとりの様子や言動を見取り、価値付けることで、子ども同士が互いのよさに気づき、認め合うことができる集団づくりを推進する。
- 他者と協働することの大切さや素晴らしさを実感できるよう、一人ひとりが役割を果たし、仲間と共につくりあげる体験活動等の充実を図る。
- 誰にでも間違いや失敗があることを認め、互いに尊重し合う経験を積み重ねることで、受容的な態度を育てる。

### ■規範意識の涵養を図る

- 道徳科や特別活動等において、ルールやマナーに関するロールプレイを行うなど、互いに気持ちよく過ごすために必要なことについて考える場面を設ける。
- 学級会等で、子どもたち自身がルールやマナーの意義について話し合ったり、状況を改善するために新たなルールをつくったりする機会を設定する。
- 学校行事など、集団で取り組んだ活動について振り返ることを通して、正しく判断する力や社会的ルールに基づいて行動しようとする態度を養う。

## 1-3

### 郷土に根ざしたキャリア教育の充実

将来、子どもたちが社会の一員として、それぞれの個性や持ち味を最大限に発揮しながら、自立して生きていくために必要な資質や能力を身に付けていくことができるよう、各教科等において、地域や様々な人との関わりを重視し、学ぶ目的や学び続けることの意義について理解を深める指導の充実を図ることが大切です。

また、一人ひとりの確かなキャリア発達を促すためには、発達の段階を踏まえた系統的な取組の充実を図ることが重要です。

#### ■各教科等と将来の生き方をつなぐ指導の充実

- 各教科等の単元や題材において、今学んでいることが社会でどのように活用され、自分の将来の生き方とどのようにつながっていくのかについて考える場を設定するなど、社会生活や職業と関連付けた学習活動を展開し、学ぶ目的や学び続けることの意義について理解を深めさせる。
- 特別活動をはじめ、各教科等において、家庭や地域との関わりを通して自分の生き方や社会との結び付きについて考える機会を設ける。

＜取組例＞

- ・地域の方々と一緒に環境美化活動に取り組み、身近な環境問題に関心を持つとともに、地域の一員としての役割について気付くことができた。
- ・保育園や介護施設などでの体験活動を通して、誰もが安心して暮らすことができる社会のあり方について考え、理解を深めた。

- 子どもが自分たちの体験活動を意義付けたり価値付けたりすることができるよう、活動の目的や課題を明確にするとともに、学んだことを各教科等の学習や生活の場面で取り上げたり、取組の成果を地域に発信したりするなど、事前・事後の活動を充実させる。

＜取組例＞

- ・森林資源の保護について考える学習の導入場面で、森林散策や森の中での体験活動を行い、森林のよさを実感することができた。
- ・郷土の伝統芸能や祭りについて学んだ成果を学習発表会で披露し、地域の絆の大切さについて気付くことができた。

#### ■発達の段階を踏まえた取組の充実

- 「なすことによって学ぶ」特別活動の特質を踏まえ、各学年における係活動や学校行事等で、子どもが主体的に意思決定し、実践していく過程や振り返る機会を設定する。

＜取組例＞

- ・実践していく過程において、友だちの取組を評価し、認め合う活動を取り入れ、自分の成長やよさに気付くことができた。
- ・振り返る場面において、反省点や改善方法を考える活動を通して、今後の取組に生かそうとする意欲と態度をはぐくんだ。

- 生活場面や学校行事等において様々な立場や役割を経験させるなど、互いに協力し合うことや人の役に立つことの喜びを実感できる取組の充実を図る。

- 各段階において身に付けさせたい力を明確にするとともに、一人ひとりの活動の様子を把握して、個々の状況に応じた働きかけを行う。

- 学校行事や各教科等を通じて学んだことなどを記録として蓄積し、新たな学習や生活への意欲を高めたり、将来の生き方や社会とのつながりを考えたりする活動を行う際に活用する。

## 1-4

### 読書活動の充実

読書活動を通して、感性や創造力を豊かにし、感動や喜びを味わうとともに、生涯にわたって読書に親しむことができるよう、多様な本にふれる機会の充実を図ることが大切です。

また、子どもたちが本を身近に感じる環境づくりに努めるなど、読書意欲の向上と読書習慣の定着のための取組を計画的に進めることが重要です。

#### ■多様な本にふれる機会の充実

- 発達の段階に応じた読み聞かせやブックトーク等の実施により、読書の楽しさにふれさせる。
- 図書委員会による本の紹介や読書集会の企画等、子どもが主体となって交流する活動を工夫する。
- 各学年部や教科部等と連携したコーナー展示を工夫し、読書や調べ学習に活用するなど、子どもの知的好奇心を醸成する。
- 全校一斉読書の時間など、子どもが本とじっくり向き合う時間を設定する。



【コーナー展示の工夫  
～様々な人の生き方にふれる～】

#### ■本を身近に感じる環境づくり

- くつろいで本を読むことができるような机や書架の配置、テーマ性を持たせた本の展示、本の世界へと誘う<sup>いざな</sup>図書館前の掲示など、子どもが足を運びたくなる魅力ある図書館づくりを進める。
- 廊下や多目的ホールに本の展示スペースを設けるなど、子どもがいつでも本を手に取り、読むことができる環境の整備・充実を図る。
- 学校司書と連携し、学級文庫や図書コーナーの定期的な更新を行う。

#### 子どもと本をつなぐ取組の工夫

読書活動を通して、想像する楽しさや新たな知識を得る喜びを実感することができるよう、ブックトークを行うなど、多様な本との出会いの場を工夫することが大切です。

< 取組例 >

- ・各教科等の学習や図書委員会の活動などで、本の紹介を行う。
- ・ブックトークのモデルや本を選ぶポイント等を学校司書が紹介する場を設定する。
- ・物語や伝記、歴史や科学など、幅広いジャンルの本を取り上げる。
- ・紹介した本を展示し、子どもが本を手に取り、読むことができるようにする。

[ブックトークのテーマの例]

生き物	自然	平和
友情	生命	スポーツ
夢	職業	など



【学校司書による本の紹介】